

## With/Post ナラ枯れ時代の広葉樹林管理戦略の構築

### 1 代表機関・研究統括者

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 北島 博

### 2 研究期間：令和4年度～令和6年度（3年間）

### 3 研究目的

新たなナラ枯れ被害拡大地域での対策については、「監視と防除によるWithナラ枯れステージ」へと進めるとともに、既にナラ枯れ被害が存在している地域については、「ナラ枯れの発生を前提とした広葉樹林資源の活用と循環を目指すPostナラ枯れの広葉樹林管理」を実現する。

### 4 研究内容及び実施体制

#### ① Withナラ枯れに向けた新たな被害拡大阻止戦略の確立

ナラ枯れ被害が拡大している青森から北海道に対する拡大阻止体制、市民活動による都市域での被害防除体制を確立する。

（（地独）北海道立総合研究機構森林研究本部林業試験場、（地独）青森県産業技術センター林業研究所、（国研）森林研究・整備機構、茨城県林業技術センター、群馬県林業試験場、埼玉県寄居林業事務所、大日本除虫菊株式会社）

#### ② Postナラ枯れに向けた広葉樹林資源の活用・循環戦略の提案

被害地探索の低コスト・省力化、被害地におけるナラ類利用による経営条件の解明、被害地の広葉樹林更新フロー図の作成を行い、自治体や森林組合等に提案する。

（（国研）森林研究・整備機構）

### 5 最終目標

被害発生の監視と初期防除を最小限のコストと労力で実施可能な防除体制を確立する。また、更新・施業条件を踏まえた広葉樹資源経営モデルと被害地の森林更新を導くフロー図を自治体や森林組合等に提案する。

### 6 期待される効果・貢献

北方被害の監視や市民による都市域防除でWithナラ枯れ時代が構築され、ナラ枯れ存在下でも容易な被害発見や、更新で資源循環を行いつつ広葉樹資源を活用するPostナラ枯れ時代へ進むことができる。

## 背景

ナラ枯れは防除の時代から、広葉樹資源の活用と循環の時代へ、しかし・・・

新たな防除技術が必要な地域がある！

○青森から北海道へ



○都市域での枯死木：人的被害とインフラ障害の懸念



広葉樹資源の活用と循環へ向けた課題

○食料・農業・農村基本計画：複合経営モデル



○森林・林業白書：広葉樹材の販売と持続的な生産



## 目的

## With / Postナラ枯れ時代の広葉樹林管理戦略の構築

With:新たな被害地拡大阻止 → Post:ナラ枯れ存在下の広葉樹資源の活用と循環

## 中課題 1.

Withナラ枯れに向けた新たな被害拡大阻止戦略の確立

北方拡大対策

未被害地の管理戦略  
(北海道総研)



被害拡大先端地の管理戦略  
(青森県)



市民活動による都市域対策



市民が使える防除技術の開発

(大日本除虫菊  
森林機構)



市民活動の適期・適地決定

(群馬県、  
埼玉県、  
森林機構)



市民活動の実証  
→防除体制確立

(茨城県、埼玉県、  
森林機構)

## 中課題 2.

Postナラ枯れに向けた広葉樹資源の活用・循環戦略の提案

容易に発見→活用・循環する



ナラ枯れ発生地特定技術の低コスト・省力化 (森林機構)



ナラ枯れ対策に資する  
ナラ類利用による経営  
条件解明 (森林機構)



ナラ枯れ発生地の  
広葉樹林更新  
フロー図作成  
(森林機構)

## 最終目標

- 北方被害拡大阻止体制、市民活動による都市域防除体制の確立。
- 低コスト・省力的な被害地探索技術、被害地における広葉樹資源経営モデル、被害地の森林更新を導くフロー図の提示。

## 期待される効果・貢献

- 新たな被害地拡大阻止によるWithナラ枯れ時代の構築
- ナラ枯れ存在下でも広葉樹資源の活用と循環を行うPostナラ枯れ時代へ

